第六十五回神田古本まつりの收穫（乾）

土屋　博

一九六〇年に始まりたる「東京名物神田古本まつり」、早や六十五回目を迎ふるに到れり。すべてを見盡くすには、かなりの時間と體力を要す。小生、今回は、初日、四日目及び八日目に赴きたり。

高齢老人の顧客數は殊の外少なく、世の中の世代交代、著實に進みたるを肌にて實感す。一方、コロナ禍も終りて、外國人顧客、相當增えたる印象こそあれ。

一「和文規範　卷一、卷二、卷三、卷四　揃」里見義著

（東京阪上氏藏梓、明治十六年刊、三〇丁＋三六丁＋四二丁＋四九丁）

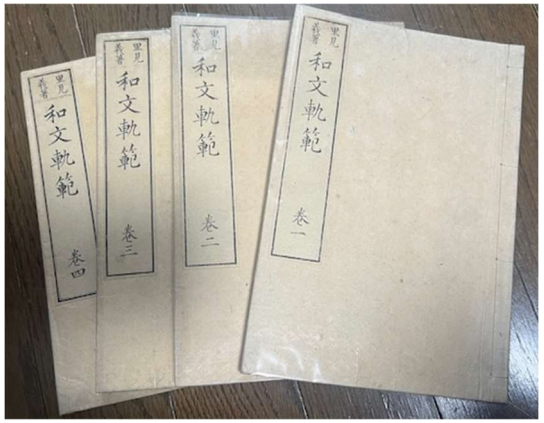
古書價格各五百圓也。文部省檢定濟尋常師範學校用教科書。

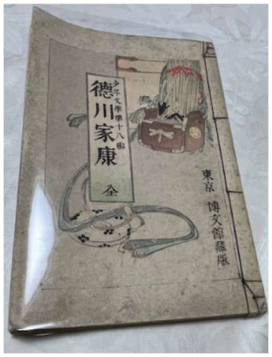
卷之一。神器（神皇正統記）、初春（源氏物語初音）、無益の事（徒然草）、管丞相の詩（著聞集）、手書くこと（玉かつま）、うつくしきもの（枕草子）、舊都月（盛衰記）など。

二「德川家康　全」矢部五洲著

（博文館藏版、明治二十六年刊、定價金拾二錢、一三六頁）

古書價格三百圓也。序を見るに、「一外人あり、會て福澤諭吉氏に問ふて曰く、『日本に於て古來の歴史中第一の人物と稱すべきものは何人なるや』。福澤氏は暫し默考の後答へて曰く、『德川家康ならん』と。」とあり。





三「增訂再版　日本之陽明學」文學士高瀨武次郎著

（鐵華書院、明治三十二年再版、定價金五拾錢、本文二七四頁）

古書價格五百圓也。初版は明治三十一年。高瀨武次郎（一八六九年生れ、一九五〇年歿）は、東京帝大文科大學漢文科卒、京都帝大教授（支那哲學史）。

井上哲次郎博士、叙に曰く、「頃ろ文學士高瀨武次郎君『日本之陽明學』を著し、來たりて序を余に需む、余披きて之れを見るに、我邦に於ける陽明學を史的に叙述し、略其學派を網羅して、之れが學說を論評し、人をして一讀其梗概を知らしむ、

世の教育家之れを以て其品性陶冶の資料となさば、豈に多少の效なしとせんや」と。

本書中、西鄕南洲については、「西鄕隆盛少壯より王學を喜び、又友人子弟に勸めて王學を修めしむ。蓋し其の實學にして、且つ心術涵養に力あるを以てならん」とあり。

四「菅公傳」文學士高山林次郎著

（同文館藏版、明治卅三年刊、定價金四拾錢、本文一八一頁）

古書價格五百圓也。序論に曰く、「生きては忠良の臣と稱せられて芳名を汗靑に留め、死しては威靈の神と崇められて千古に廟食す。今に於て國民誰か公の名を仰がざらむ」と。菅原道眞（八四五年生れ、九〇三年歿）の政治家としての側面及び詩人としての側面の双方に及び考察す。

高山樗牛は、一八七一年生れ、一九〇二年歿（肺結核）。本書は一九〇〇年に刊行せらる。

五「國詩」國詩會選

（明治書院、明治三十九年刊、定價金六拾錢）

古書價格五百圓也。春の歌、夏の歌、秋の歌、冬の歌、戀歌、雜歌。

六「論語講義」文學博士三島毅著

（明治出版社藏版、大正六年四月四版、定價金壹圓貳拾錢、本文四三六頁＋附錄一六四頁）

古書價格二百圓也。函入。天金。初版は大正六年一月。今回の古本まつりの最大の收穫物なり。三島中洲（一八三〇年生れ、一九一六年歿）は、昌平黌にて佐藤一齋、安積艮齋に師事。漢學塾二松學舍の創立者。

七「保元物語評釋」鳥野幸次著

（明治書院、大正八年五版、定價金八拾錢、二七六頁）

古書價格二百圓也。總說に曰く、「保元の亂は保元元年七月二日鳥羽院の崩御が直接の動機となり、同月十一日に白川殿攻擊の事あり、僅か半日にて勝負決し、其の後の処分も月末までに終りしものなれば、本物語の大部分はひと月の間の記事なり」と。

八「玉かつま新釋」文學士吉川秀雄著

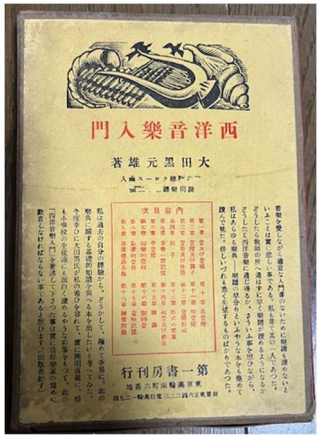
（有精堂、大正十四年十三版、定價壹圓參拾錢、本文二六八頁）

古書價格二百圓也。初版は大正九年。序に曰く、「宣長はどこまでも理性の人であつて、感

情の人ではない。これ彼が學者として師の眞淵を凌駕するにも拘らず、歌人、文人として遙かにこれに及ばぬ所以である。但し、その論文に至つては、精妙を極め周到を盡した筆ぶりは、實にその獨得の壇場で、容易に他の模倣を許さぬ。玉かつまの廣く國文學者間に愛讀せらるる所以は茲にある。」と。

九「西洋音樂入門」大田黑元雄著

古書價格二百圓也。函入。大田黑元雄（一八九三年生れ、一九七九年歿）は、芝浦製作所の經營者大田黑重五郎の長男。裕福なる生涯を過ごし、神奈川県立二中卒業後、ロンドン大學經濟學部に留學。シャリアピン、メルバ、ロシアバレエなど本物の演奏に觸れ、我が國最初の本格的音樂評論家となる。ＮＨＫラジオ「話の泉」のレギュラーとして名高し。著書は「バッハよりシェーンベルヒ」を始めとして多数あり、小生はそのほとんどを所有す。



十「新釋　橿園文抄」春野裕著

（有精堂、大正十五年刊、定價金壹圓貳拾錢、二三二頁）

古書價格二百圓也。凡例によらば、中島廣足（一七九二年生れ、一八六四年歿）は熊本の人。橿園（きょうえん）の名は長崎の家に橿（かし）の木があつたことによる。

十一「湖月抄　全八册」

（文献書院、大正十五年刊）

揃ひにて古書價格三千圓也。首卷は、發端、年立、系圖、表白（僅か三頁にて源氏物語全體を見事に要約したるもの）より成る。第一册は桐壺より花宴、第貳册は葵より松風、第三册は薄雲より藤袴、第四册は眞木柱より柏木、第五刷は横笛より角總、第六刷は早蕨より夢浮橋、第七册は用語並和歌索引。

（令和七年十二月十日受附）